

不破郡

江國犬上郡、坂田郡に至り、北は不破郡に亘れり、文德實錄に、齊衡二年閏四月丁酉、分美濃國多藝武義兩郡爲多藝石津武義郡上四郡と見えしが、當郡のはじめにて、和名類聚抄に石津伊之とし、其外の古書にみな其文字を用ひて今に至れり、略高二万六千九百八十七石九斗三勺、九十一ヶ村古高帳には、一万九千七百九十一石餘、百三ヶ村とし、郡村記に八十八ヶ村とす。

〔文德實錄七〕齊衡二年閏四月丁酉、分美濃國多藝武義兩郡爲多藝石津武義郡上凡四郡、

〔新撰美濃志一〕美濃二十一郡、不破郡は、國のうちの西のはてにありて、東はもと杭瀬川を隔て、安

八郡に隣り、東南は多藝郡、南西は石津郡に亘り、西は近江の坂田郡に至り、北はすべて池田郡の地界なり、東西は長く、南北は短くして、東山道の驛路西より東へ郡の真中をつらぬけり、和名類

聚抄に不破國府と見え、六國史、萬葉集、延喜式等をはじめ、くさくさの古記どもにもみな不破と

かきて、外の文字を用ひたる例なし、略高三万七千八百九十三石四斗二升四十六ヶ村古高帳

餘、四千二百九十六石、

〔日本書紀二十六〕六年十月、百濟佐平鬼室福信、遣佐平貴智等來獻唐俘一百餘人、今美濃國不破片

縣二郡唐人等也、

〔日本書紀二十八〕元年六月丙戌、男依乘驛來奏曰、發美濃師三千人、得塞不破道、於是天皇美男依

之務、既到那家、先遣高市皇子於不破令監軍事、

〔萬葉集二〕相聞、高市皇子尊城上殯宮之時、柿本朝臣人麻呂作歌一首并短歌、

挂文、忌之伎、鳴カケ一カモ云カモ由遊志、言イハ久母、綾爾アヤ長伎、明日香乃、真神マコト之原、爾ニ久堅能、天津御門乎、懼母、定賜

而神ミコ佐扶跡、磐隱座八隅、知之、吾大王乃、所聞見爲、背友乃國之、真木立、不破山越而、狗劔和射見我

原乃、行宮爾、安母理座而、天下治賜、賜ハ而、食國乎、定賜等、略下

〔扶桑略記六〕元正、靈龜三年九月丁未日、天皇幸美濃國不破山中禮泉、自出飲浴之者、白髮反黑、闇目